

髭の殿下

「髭の殿下」こと三笠宮寛仁様は、去る6日逝去されました。享年66歳、人生80年時代を迎えた中では、早すぎる死といえましょう。

殿下は、昭和21年1月5日、三笠宮家の長男として誕生され、大正天皇の孫、天皇陛下の従兄弟に当たられます。

また、殿下は、平成3年に食道がんの手術をお受けになって以来、喉にできたがんのため、これまでに16回の手術や治療を受けてこられました。更に、平成20年の手術によって声を出すことができなくなり、人工喉頭と呼ばれる器具を使用して会話をされるようになっていました。

この他、アルコール依存症や不整脈の治療のためたびたび入院されており、文字通り満身創痍といった状態でした。

殿下は、元々大変なスポーツマンで、スポーツ振興にも積極的に取り組まれました。道内で開かれたスキー大会にも数多く参加されており、北海道との縁の深い皇族のお一人です。

報道でも色々な方がお話になっていますが、大変明るく、非常に気さくな方だったようで、私も殿下にお目に掛かった経験から、同じように感じています。

私が殿下にお会いしたのは、教育長をしていた時だったように記憶しています。殿下が宮様スキー大会の関連で来道され、歓迎の夕べを開いた際お目に掛かることが出来ました。

殿下のご挨拶は、なかなか軽妙で、ウイットに富んだお話をされたのがとても印象的でした。

また殿下は、みずからを「福祉の現場監督」と呼び、福祉団体の会長として障がい者の自立を支援したり、障がい者のスキーの指導に当たったりするなど、障がい者の福祉にも積極的に取り組んで来られました。

去年5月には、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県を訪れ被災した人々を励ますなど、精力的に公務を続けてこられました。

殿下は、天皇陛下と同様、国民に寄り添うお気持ちが大変強かったと拝察しており、その意味でも、私は、殿下の死を大変残念に思っています。

殿下には、まだまだやり残したことが沢山お有りだったに違いありません。特に、皇室の行く末には、殊の外思いがお有りだったのではないのでしょうか。最近では、皇位継承のあり方をめぐり、積極的にご発言なさっていますが、そのご主旨とするところは、「初代の神武天皇から連綿と男系が続いているからこそ皇統は貴重なのであり、男系天皇の維持を図るべきである。」というものであり、私も個人的にはそのお考えに共感しています。

スポーツマンだった殿下が、後半生は病魔との壮絶な闘いに明け暮れる日々となりましたが、それを支えたのは、スポーツによって鍛えられた精神力と共に、皇室を支えるという強い意志のせいだったのかも知れません。

皇室はまた1人、大切な方を失いました。

心より殿下のご冥福を祈ります。(塾頭 吉田 洋一)